

# 令和8年度学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①SSHの取組と各教科での取組を相関させ、問題解決能力の育成を図る。</p> <p>②新たな教育課程に基づく生徒の進路実現を達成するために指導環境の整備と教育課程の検証・改善および生徒の学習体制の構築を行う。</p>	<p>①育成する5つの力を基にした授業展開を行い、SS科目を含めた各教科の取組をコンピテンシーベースで結びつける。</p> <p>②新たな教育課程の導入によって、生徒のさらなる学力の定着を進めるとともに進路意識の向上につなげる。</p>	<p>①各教科で育成を目指す5つの力を、教科活動に落とし込むことで授業改善に取り組む。</p> <p>①デジタルポートフォリオ等を利用し、生徒一人ひとりが教科を越えて学びの総括ができる仕組みを引き続き構築する。</p> <p>②教育課程の説明や選択科目調査時に進路志望を意識した選択を行うための働きかけを通ずり、生徒自身が日々の学習の重要性を再認識するような指導を行う。</p>	<p>①SSHの取組で実施する意識調査等の結果から分析する。</p> <p>①デジタルポートフォリオの利用科目が昨年度の科目数よりも増えたか。生徒・教員による意識調査の結果から分析する。</p> <p>②授業評価アンケートの教員の満足度上昇傾向が見られたり、選択科目調査における志望校に具体性がある生徒の増加が見られたりするかを検証する。</p>
2	(幼児・児童・) 生徒指導 ・支援	<p>①日々の学校生活や生徒会活動の場面で、自発的・主体的に行動できる人材の育成を図る。</p> <p>②教育相談体制を充実させ、支援が必要な生徒に対して柔軟な働きかけを行う。</p>	<p>①生徒主体で作りあげる学校行事、部活動、自治活動を推進する。</p> <p>②教育相談体制を整えるため、生徒情報の共有、SC、SSW、外部機関との連携を進め、教職員の専門性を向上させる。</p>	<p>①生徒と教員の連携を密にし、何のために行うのか、議論しながら生徒主体に企画運営していく。</p> <p>②学年教育相談を中心とし、教育相談コーディネーターがファシリテーターし、多角的な視点から支援プランを策定する。</p>	<p>①面談やアンケートを実施し、企画の満足度や達成度など生徒からのフィードバックを収集し、分析する。</p> <p>②教育相談コーディネーターが中心となって学年内の対話を活性化させ、個々の生徒の課題に対し、教職員が共通理解に基づいた多角的な支援プランを策定・実行できているか。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>①なりたい自分を探求し、その実現を目指すための進路行事や学習活動を充実させる。</p> <p>②個別面談、教員研修を通じ、新たな教育課程や入試制度に柔軟に対応することができる支援体制を構築する。</p>	<p>①模擬試験の日程、実施回数を改定し、その分析結果を生徒たちが進路決定する際、資料として活用する形づくりをする。</p> <p>②教員の模試分析会、入試動向の報告会を実施し、教員が昨今入試の動きに柔軟に対応できるようにする。</p>	<p>①年間行事に各学年で4回ずつ外部試験を予定、これと定期試験の結果を含め、進路とどう結びつくか分析する。また、これを進路通信や講演会で発信する。</p> <p>②8月に外部業者による教員向け研修会を実施する。また、この際、教科会も開催し、授業への還元を促す。</p>	<p>①模試の分析と定期試験の結果を結び付けて分析できたか。進路通信の発行、講演会での情報発信をできたか。</p> <p>②教員向け研修会を実施し、教科会を経た授業への還元を促すことができたか。また、研修会の内容が適切であったか、アンケートを実施する。</p>
4	地域等との 協働	<p>①家庭や地域、同窓会等との協働を進め、信頼される学校としての更なる発展を目指す。</p> <p>②SSHの活動において他の教育機関や企業・地域との連携を強め、コンソーシアムの構築を目指す。</p>	<p>①保護者や同窓会、近隣の小中学校、近隣住民等と連携・協働して教育活動や地域貢献活動、交流イベント等を充実させ、様々な広報活動を通して外部に発信する。</p> <p>②外部メンターによる指導・助言を受けられる体制を持続可能なものに構築する。Scuolaセミナーなどの講座における連携先の新地開拓を図る。</p>	<p>①学校ホームページ、学校説明会、全公立展、文化祭及び地域貢献デーなどの行事を通じて、地域の小中学校や近隣住民等と連携した実績やSSHの取組について発信する。</p> <p>①同窓会活動への理解を深めるために協働して活動の改善点を検討し、現役生徒へ更に充実した支援を行えるようにする。</p> <p>②外部メンターとして生徒の指導・助言を定期的に行ってもらう。外部メンターとして同窓生との連携を図る。Scuolaセミナーで新規の講座を展開する。</p>	<p>①学校ホームページ、学校説明会、全公立展、文化祭及び地域貢献デーなどの行事を通じて本校の取組を発信できたか。</p> <p>①同窓会と連携し活動への理解が深められたか。同窓会入会者の数が増えたか。</p> <p>②外部メンターの方からの指導回数。および、外部メンターのメンバーや講座内容の変化の状況等を指標に基づいて分析を行う。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①働き方改革に向けて、TeamsやICT機器の使用方法を更に思索し業務の効率化を図る。</p> <p>②社会から求められる様々な教育ニーズに対応できる教員指導力の向上を目指す。</p>	<p>①各種の研修を通じて、教職員のICT活用スキルを高める。</p> <p>②人権や教育相談の視点から生徒との関わりを再点検する。</p> <p>②学校教育目標に掲げる5つの力の育成を意識した教員研修を計画・実施する。</p>	<p>①各種の研修定期的に開催し、教職員のICT活用スキルを高める。</p> <p>②様々な研修会を通して、人権や教育相談といった視点から、これまでの教育活動を見直す機会とする。</p> <p>②職員会議などの定例の会議を活用し、短時間での研修を行う。SSH事業の取組みと関連づけながら学校教育目標を意識した内容で実施する。</p>	<p>①教職員対象のICT活用スキルを高める研修を実施できたか、また教職員のICT活用状況から業務の効率化を図ることができたか。</p> <p>②研修を通じて、職員の共通理解が深まったか。</p> <p>②教員対象の研修を実施した回数、および教員の取り組みの内容を共有し、かつその内容を学校の成果として公表できたか。</p>